鹿児島県立博物館研究報告（第13号）：11～14，1994

奄美大島で日本初のハネナガチョウトンボの生息を確認

笹　原　節　男*

Rhyothemis severini Ris on Amami－oshima Island
the discovery and probable colonization

Sethuo Sasahara

1993年７月，筆者は奄美大島名瀬市で，ハネナガチョウトンボの生息地を確認，調査したので報告する。ハネナガチョウトンボは，日本では初記録と思われる。報告に先立ち，標本（写真）の同定や御教示，発表のお勧めとともに，発表内容にいろいろと貴重な御指導をいただいた日本蜻蛉学会会長朝比奈正二郎理学博士，多くの指導をいただいた福田晴夫氏，江平憲治氏に厚くお礼申し上げる。

私は７月５日，名瀬市に於いて，チョウトンボに近い種を発見し，３♂を採集して朝比奈博士に同定を依頼し，それらがハネナガチョウトンボと判定された。朝比奈博士からは，「これは一見ハネビロトンボに近い形をしていますが，Rhyothemis severini Risハネナガチョウトンボ（和名は1915年小熊捍博士命名）というチョウトンボ属のもので，1913年“Indochina”から初めて記載されたものです。台湾には異常飛来（？）することが稀でないようです。今回，奄美大島にて少なからず採集された由で，記録する意味が大いにあります。(後略)」とあり，再度の７月18～22日の現地調査を行った。

Rhyothemis severini Ris　ハネナガチョウトンボ

所検標本：５♂　２♀　奄美大島名瀬市

♂腹長　27～28mm，後翅長　41～45mm

♀腹長　24～26mm，後翅長　40～43mm

体は黒褐色で，前後翅共に淡褐色を帯び，前翅先端下部に一辺３～４mmの四辺形状の黒紫色部と後翅の広い基部に幅10mm程度の美しい黒紫色部がある。

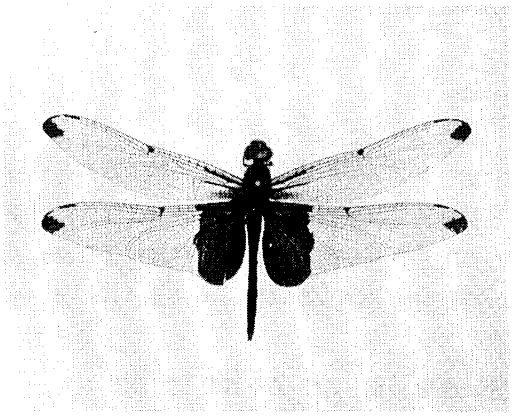
飛翔はチョウトンボに似て，主に同一区域内を緩やかに往復旋回するが，動きは敏感である。

棲息環境：海岸と海岸から500～1000m離れた標高300m以上の山の間にある稲作用に耕地整理された平地で（約1000m×1000m）の３分の２程が，現在休耕田である。平地の中央西側寄りを川（河口付近幅30m，上流付近幅数m）が走る。休耕田の多くは，高さ１～２mのハイキビが，一部にタチスズメノヒエが茂り，湿地状で部分的に水面がのぞいている。ハネナガチョウトンボの生息地は，この一部で広さ約65m×25mと25m×20mの近接した２カ所の湿地である。全体としては，開けた環境であるが，湿地の周辺は１～２mのハイキビが，湿地を囲むように繁茂し，湿地内は水深が20～30cm，湿地内の水は，どちらかと言えば澄んでいて，各種のトンボが見られ，多数のオキ

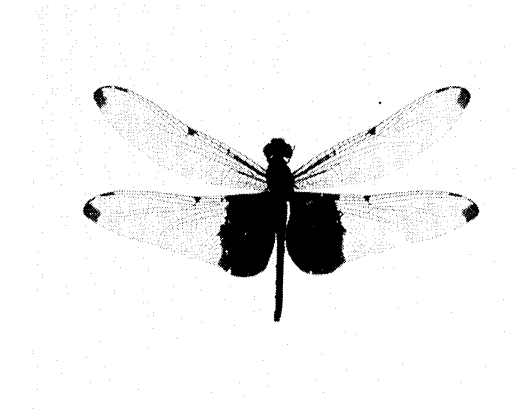
*〒892：鹿児島市城山町１－１　鹿児島県立博物館

ナワチョウトンボを中心に，次に示すトンボが見られた。

リュウキュウベニイトトンボ，アオモンイトトンボ，コフキヒメイトトンボ，タイワンウチワヤンマ，ギンヤンマ，シオカラトンボ，ハラボソトンボ，オオシオカラトンボ，アオビタイトンボ，コシブトトンボ，ショウジョウトンボ，ヒメトンボ，ベニトンボ，＊オオキイロトンボ（鹿児島県下初記録），オオメトンボ，オキナワチョウトンボ，ウスバキトンボ



ハネナガチョウトンボ♂　1993. Ⅶ. 5



ハネナガチョウトンボ♀　1993. Ⅶ. 20

ハネナガチョウトンボの調査記録

7月5日（曇り時々晴れ）

11：00～12：30（晴れ）　10数頭目撃。

3♂採集。3倍程の数のオキナワチョウトンボに混じり，♂が縄張り中心の活動。

7月6日（曇り時々晴れ）

16：00～17：00（晴れ）　♂が多くの縄張り活動。

7月18日（曇り時々晴れ）

8：00～9：00（晴れ）　10数頭が湿地内を飛翔。

9：00～11：00（晴れ）　交尾活動活発。3対の交尾を見る。

13：00～15：00　4対の交尾を見る。

7月19日（雨）

14：00～14：30（曇り）　目撃なし。

7月20日（曇り時々晴れ）

9：00～10：30（曇り）　数頭目撃，湿地内で1対が交尾後，産卵。

10：00～12：30（曇り）この後雨。　縄張り活動始め4頭から2頭に減る。

15：00～17：00（曇り，ときに明るい）　10数頭活発に交尾活動。2♂2♀採集。

7月21日（曇り時々晴れ）

9：30～10：30（晴れ）　10数頭交尾行為中心の活動。

11：00（曇り）　交尾活動殆ど終わり，♂縄張り活動。♀姿消す。

15：00～16：20（曇り，雨上がり）　動くトンボの姿なし。

16：30～17：30（太陽が覗く）　3♂1♀活動。

17：40（太陽が殆ど山に隠れる。）　枯れ草の先端に1♂のみ。

なお，1993年7月18日に於ける奄美大島龍郷町の湿地では，極めて多数のオキナワチョウトンボ，また，近くの道路上で，無数のウスバキトンボに混じり，群飛している多数のオキナワチョウトンボが見られたが，ハネナガチョウトンボは見られなかった。

棲息水域で静止する♂

棲息水域

縄張りについて

縄張りは，湿地内に限られ，ほぼ数m以上の間隔をとり，多くは，後方にハイキビが茂って採集しにくく，時間帯によっては，20～30分動かないこともある。同一区域内に，3倍以上の数のオキナワチョウトンボが，縄張りをしているので，これが接近した場合に2～3m追跡しては，戻るのが普通である。オキナワチョウトンボとは強い縄張り争いはしないほうで，1本のハイキビにこの2種類のトンボが縄張りを張っているのも見られた。ハイキビに静止する縄張りの時間帯には♀は殆ど見られない。縄張り行動は晴天時に最も盛んで，時間的には，晴天時の11：30～13：30，15：30～17：00が多かった。しかし，終日天候に恵まれない日には，これらの時間帯が，必ずしも会わない場合もあった。

交尾活動・産卵について

交尾行為は，晴天時が最も盛んで，7月における交尾の時間帯は，晴天時においては，およそ9：00～11：00及び13：00～15：00であった。交尾の時間帯には，♀の数が増え，多いときには，10数頭の♂に対し，数頭の♀が現れ，♀は水辺の挺水植物の端の付近に単独打水産卵するか，水面から10cm～50cmの高さで，10m×10mほどの領域を低空飛翔していた。♂は♀を追尾し，交尾したまま，その場を離れるのが多い。♀は単独打水産卵するが，♂は1mほどの高さを移動しながら，これを見張る。これも30秒そこそこで，他の♂に邪魔されて，その場を離れる。オキナワチョウトンボの交尾時間帯がほぼ同じであることから，これに追われたり，邪魔されたりすることがあっ

た。交尾の時間帯が過ぎると，♀の多くは湿地内の奥の部分のハイキビの中に，休んでいるように思われる。

今回は，７月だけの調査であるが，筆者及びその間の複数の採集者等の結果から，これらの期間の数を総合すると，この湿地内には40～50頭は出現していたと思われる。そして，少なくとも昨年以前からこの地での生息が考えられる。

また，江平憲治・松比良邦彦の両氏が1993年７月12日に，当湿地で同種の確認をしている。さらに，両氏は隣町の龍郷町でも，数頭の同種の確認をしている。

最後に，筆者は，ハネナガチョウトンボの報道機関への公表を，1993年９月１日に踏み切ったが，発表が遅れたのは，早期の発表による乱獲を防ぎ，この地での同種の定着を願ったからである。

参考文献

Asahina, S.：1972, Additional notes to the knowledge of the Odonate fauna of Taiwan and the Ryukyus（台湾及び琉球産蜻蛉類知見補遺），TOMBO, 15（１～４），２～９